



会長就任に際して

会長 三 神 美 和



新任挨拶の三神会長

「全会員注目の役員選挙もふじ終了し、本会も新理事を迎えて四八年度へとスタートを切りました。」

会員の皆様には相変わらずお元気に活躍の事とおよろこび申上げます。

第十八回定期総会に於ける役員選挙で、測らずも三度会長に推薦されましたことは、私にとりまして身に余る光栄でございます。ここに皆様のご好意に対し、心から御礼申し上げます。浅才微力の私が二度までも会長として、その責を果させて頂きましたことは、優秀な役員の方々のご協力と会員諸師のご援助の賜物と存じます。今後の三年間も従来と変わらぬご協力とご援助と

をお願い申し上げます。

一九七六年の国際女医学会を控えての今期の会長は、言わば国際女医学会準備会長の様なものであります。物心両面から、皆様のご援助を頂かなければ、到底その責を全うすることは出来ません。どうぞ従前にもまさる一層のご後援をお願い申し上げます。

第十八回定期総会はかつてない多数のご出席を得て、盛會裡に終了しました。来るべき国際女医学会の会場と定められている帝国ホテルで、午前九時から評議員会、それについで総会、役員選挙、夜はきらびやかな新館孔雀の間の晩餐会まで、万事滞りなく行われました。この準備に当られた理事、特に庶務担当の方の行き届いたご配慮に心から御礼申し上げます。

この総会で皆様にご検討をお願いいたしましたところの大切な事項に、会費値上げの件があります。インフレムードの中、会費値上げは心苦しいこと

ではあります。事務所費や人件費、国際女医学会費など急増する関係でどうしてもお願いしなければならぬようになりました。一、五〇〇円から二、五〇〇円へ、年額千円の値上げとなりますがどうぞよろしくお願い申し上げます。社団法人の運営は会費収入で賄わねばならぬのが建前であり、幸い本会は会費の他寄附金などの収入がありますので、色々の事業を遂行することが出来ます。今回新たに設けた事業として公害調査というのがあります。

これは来年の第十四回国際女医学会のテーマに対する調査費であります。わが国の公害は、世界的に有名であります。日本特有の公害についてブラジルの総会に演題を出したいと存じますのでそれに要する調査費を計上したのであります。十分活用され、よい成果をあげられますよう希っております。

今回四名の吉岡弥生賞の授賞者がありましたことも異例であります。社会的貢献をされておられる方も、学術的にすぐれた方も多数おられることは、やはり日本女性の最高の団体だと今更乍ら感心しております。推薦された候補者はどなたを見ても甲乙つけ難く、今年には予算一ぱいを出して四人と致しました。吉岡弥生先生も地下でどんなにかお喜びのことと思います。

全国の女医一万一千人、そのうち日本女医学会員は四千五百人です。未加入者の方が多いためです。そのなかには若い優秀の方々もおられること存じます。そしてまたこの中には吉岡弥生賞に該当するような

すぐれた研究をしている方もおられるに違いないと思います。この方々にも何とかして本会に加入して頂いて、日本女医学会が名実ともに日本の全女医を網羅した会に発展するよう希っております。

加入者を増やそう!! 私は今後のテーマとして推進したいと思います。皆様の一層のご協力をお願いして三度会長就任のご挨拶と致します。(四八・五・十五)

第十八回定期総会開催

日本女医学会第18回定期総会は昭和48年5月13日午前10時より東京都千代田区内幸町帝国ホテル・スカイルームで開催された。出席会員四六四名にのぼる盛會であった。

柳 瀬 路 子

- プログラム
- 一、開会の辞 副会長 小俣喜久子
 - 一、会長挨拶 会長 三神 美和
 - 一、物故会員への黙禱
 - 一、議長・議事録署名人選出
 - 一、会務報告 常任理事 柳瀬 路子
 - 一、議事
 - 一、昭和47年度決算報告 常任理事 中西 清子
 - 二、財産目録・年金会計報告 常任理事 中西 清子
 - 三、監査報告 監 事 八木 貞子
 - 四、剰余金処分案について 常任理事 中西 清子
 - 五、昭和48年度事業計画案 副会長 山崎 倫子
 - 六、昭和48年度収支予算案 常任理事 丸山 芙実
 - 七、会費値上げについて 会 長 三神 美和
 - 八、次期総会開催地について 会 長 三神 美和
 - 九、役員選挙 (中食休憩)
 - 十、新役員紹介 十一、新会長挨拶 新会長 三神 美和
 - 一、吉岡弥生賞授与式 一、国際女医学会について 常任理事 小野 春生
 - 一、閉会の辞 副会長 川那部喜美子 (以下当日の会の模様を抄録する) 司 会 (松岡 宏子)
- 本日現在の日本女医学会員数は四、五二四名。
本日の出席四六四名。
委任状提出一、四一二。
定款により本総会は成立しております



左より会長 三神・副会長(川那部,小俣,山崎)

す。
会長挨拶(三神 美和)

本日は既に四〇〇名を超える多数の御出席で、年々総会が盛大になります。事は誠に喜ばしく思います。この会員諸師の熱意が国際女医学会日本誘致を実現させたものと考えます。会費の問題ですが、47年度は会費収入以外の年金手数料、ルーベンドントの特許料収入などでカバーされましたが、これは一考を要する事と思われます。第一に国際女医学会への準備。これは日本女医学会の面目にかけても立派にやり抜かなければなりません。そのために一番重要な問題は資金面であると思えます。第二に本部事務所の問題。本年度は一年契約で再び新至誠会館の一部を拝借する事が出来ましたがこのまま放置して良い問題ではありません。その第三は物価騰貴、人件費の問題があります。以上の理由から48年度の予算編成に当

って会費値上げの件を御検討を頂き度いと思ひます。

本会も国際的に大きく成長いたしました。昨年度のバリへは99名の御参加があり業績も立派なものを出しました。国内的にも各支部が地域社会の為に貢献の事を挙げておられます。これらを反映して本年度の吉岡弥生賞は、社会に貢献された方として野呂たじ、阿部秀世両先生に、学術面では河野 林、鮫島美子両先生に贈られる事になりました。

本会の会員数は四、五〇〇人でありますが、これは日本の女医数の半数にも達していません。本年度は会員増強の年として名実ともに日本の全女医を網羅した団体となって内外に一層の活躍をしたいと思います。

議長、議事録署名人選出
(司会者一任という声あり、司会から会長が指名を依頼され、左の諸先生が選出された。)

議長 川野辺 静、日野千代子、増田 文枝
議事録署名人
今野 信子、串田つゆ香

◎報告事項
会務報告(柳瀬 路子)
(印刷物により昭和47年度の会務報告が、庶務報告、事業報告の順で行われた。)

会員数四、五二四名。中新入会員二三名、新入会員の内訳は、新卒九八名。他一三四名であり、住所変更二四名。住所不明一四六名。
一九七六年国際女医学会日本開催を記

念して、記念切手の発行を申請してみては如何という発案が高知県の小出つる子女士より出されまして、理事会で検討した結果申請してみる事になりました。小出先生には総会に先立っていろいろお骨折りいただきました。実現となれば嬉しいことです。

事業報告の中、助成事業に関する項目の、東京女子医大無医地区研究会の報告内容が一寸お判り憎いと思ひますが、①寄生虫検査について、元村の陽性率は医師がいる為6%であるのに対し他の部落の陽性率は平均50%、60%で、投薬後は23%になったという事があります。

国際交流について(佐野アヤ子)
パリ大会の参加は37ヶ国六三八人。その中日本からの参加は90人でした。次回ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開かれます。議題は「人体に及ぼす遺伝及環境因子」となっています。

一九七六年の国際女医学会総会は日本で小野国際女医学会会長の下に開かれる事に決定しました。議題は「ウイルス性疾患について」となっております。

国際女医学会の会費は本年度から一人5スイス・フラン(約四〇〇円)になりました。本年度分として一、三五〇人分五百万円を送金いたしました。その外、バリ大会の時五〇〇ドルの寄付をしました。48年度にも二〇〇ドルの寄付をする事になっていきますので個人的にも御協力を頂きたいと思ひます。

◎議事
昭和47年度収支決算(中西 清子)
(印刷物により47年度の決算報告が

あった)「8頁雑収の項の五十万円の減とあるのは次行繰入金五十万円の減の誤植であり、尚合計の欄に九三三、五八八円の減とお書き入れ願いたい」旨の発言があった。

財産目録・年金会計報告
(中西 清子)
(印刷物により47年4月1日より48年3月31日現在の財産目録が報告された)

監査報告(八木 貞子)
昭和47年度収支決算書及48年3月31日現在の財産目録につき、監事一同監査の結果、適法且正確である事を認めます。

川野辺議長
ご質問ご意見は如何。無い様ですのでご承認いただいで宜しいでしょうか。

(拍手)
剰余金処分案について(中西 清子)
印刷物でお目にかけた様に、国際女医学会資金(費金とあるのは誤植)及び事務所準備積立金・次期繰越金として処分させて頂いて宜しいでしょうか。

福田 貞(杉並区)
国際女医学会資金繰入れに関連して、先ず国際女医学会ファンドの説明をしてほしい。

長
国際女医学会日本開催は多額の資金を要するものと思われますので、第一歩としてバリ大会参加者の同意を得てその折の現金とエージェントその他の寄付金を集めて一五七万円の国際女医学会

ファンドを作りました。
福田 貞(杉並区)
予算案の審議後まで留保したいと思ひます。

川野辺議長
一応御承認いただいで宜しいでしょうか。

(拍手承認)
昭和48年度事業計画案(山崎 倫子)
(印刷物により昭和48年度事業計画案が説明された)協力事業として今理事会では性教育を取り上げてきましたがこの問題は一応の結果を得たので、新しく、ブラジル国際女医学会総会のテーマ「人体に及ぼす遺伝及環境因子」に沿い、日本女医学会としては健康に及ぼす環境因子という事をとり上げて公害調査を行いたいと思ひます。

川野辺議長
こういう事をした、とか、こういう事はやめたい、とか、御意見はありませんか。提案に御賛成頂けますか、(拍手)それではこれを48年度の事業計画といたします。

昭和48年度収支予算案(丸山 美実)
(印刷物により昭和48年度の子算案を先ず支出面から説明した)諸物価、人件費の高騰、事務所移転に伴う諸費用、国際女医学会員増員に伴う、会費増加、事務員の為の退職積立金の新設等に依り、前年度に比較して三二二万五千円の増となっております。

これを賄う為に会費を正会員年額二、五〇〇円、新卒一、五〇〇円という事にしないと予算が立ちません。一応その線で納入率を80%と見て会費収

入を八五〇万円といたしました。なお従来の会費納入状況は予算に比し、46年度四七万六、三〇〇円の減。47年度六二万五、八五〇円の減であります。

いいます。
川野辺議長
一応二、五〇〇円の線で予算を組んであるのでその線で会費値上げを御賛成願えませんでしょうか。

福田 貞(杉並区)
支出の面では異論ありませんが事務所引当金、準備金として積立ててあるものを繰戻して使っては如何?

次期総会開催地について
(三神 美和)
次期はやはり地方へお願いしたいと思います。石川県の金沢ではどうかという事で支部の御内意は何でしょうか。

丸山常任理事
今回の事務所移転は一年契約なので準備積立金を使うのは不相当と思えますが。

金沢という案は如何?
川野辺議長
(拍手)
では石川県の先生方御言葉をどうぞ。米林 梅子(石川県)他四名起立。

川野辺議長
48年度予算案をお認めいただけますか。

早稲田支部長代理の副支部長米林でございます。去る4月22日開きました支部会におきましてお受けする事に決定いたしました。どうぞ宜しくお願いいたします。

会費値上げについて(三神 美和)
事務所の件とか物価高騰とか国際女医会開催とか、年度は物入りが多いので会計も苦慮しております。正会員二、五〇〇円、新卒(三年目迄)一、五〇〇円という事に48年度から実施させていただきます。

役員選挙に入ります。選挙管理委員の選出を如何でしょうか。
(議長一任)
それでは指名させて頂きます。

福田 貞(杉並区)
新卒は一、五〇〇円で宜しいから、正会員は三、〇〇〇円にしては如何?

選挙管理委員
太田八重子、串田つゆ香、清水五百子、唐沢 寿、滝沢 テル、星野 和子、鈴木 文子、小田 幸子、藤田 親代、小川 昭子、山田未知子、松井 とし、近江 久子、末野三八子、二村美美江

岸 よし(山形県)
我々が会費を払うのは日本女医会のみではありません。支部長としては地元へ帰って説明するのに困難が伴いますし、集めるのも大変です。

上位6名以外の理事については得票数を省略させて頂きます。
山本 スギ 藤井 節子
佐野 アヤ子 長池 博子
熊谷 美津子 森川 みどり
佐藤 千代子 湯本 アサ
中西 清子 野中 久子
上田 葉 中川 富士
石田 妙子 稲葉 幸子
真鍋 昌子 白橋 美笑
竹内 静香 福永 ひろ子
川那部 喜美子 丸山 芙実

川野辺議長
二、五〇〇円の線では如何。

管理委員長 松井 とし(互選)
松井選挙管理委員長
(投票用紙の記載方法・投票順序などにつき説明あり。監事は福田 貞氏の辞退により無選挙となった旨報告)
監事 佐藤イクヨ、添田 百枝
戸田 静子
(午前11時30分 休 憩)
(午前11時40分 議場閉鎖)
(投票施行)

岸 よし(山形県)
二、五〇〇円なら止むを得ないと思

松井選挙管理委員長
(午後3時 再開)
有権者数 四五九、無権者 五、投票数 四四九、棄権 〇、無効投票 十一、有効投票 四四八でした。
上位6名について姓名及得票数を発表します。
三神 美和 三五六
小俣 喜久子 二九一
柳 瀬 路子 二七四
久保田 くら 二五五
小野 春生 二四七
山崎 倫子 二四二



左(議事進行をつとめる川野辺 静議長)

ヤ子・守安素女が互選されました。新会長挨拶(三神 美和)
国際女医会日本開催の為の準備に号令をかけよとの御意向と致します。一意任務に邁進して御声援に答えたいと思致します。

次に皆さんにおはかりしますが、吉岡弥生賞を提供して下さい。日本女医会の恩人である、荒川あや先生を名誉会員に推薦したいので、是非御賛成をお願いしたい。

(拍手)
荒川 あや(吉岡賞審査委員)
喜んでお受けいたします。

議事終了。
◎吉岡弥生賞授与式
本年度の吉岡賞授賞者である次の四女史の表彰状が披露され、三神会長よりそれぞれ楯と金一封が贈られた。
社会に貢献した人
野 呂 たじ 女史
阿 部 秀 世 女史
医学に貢献した人
河 野 林 女史
鮫 島 美 子 女史

国際女医会について(小野 春生)
一九七六年に日本で国際女医会が開催されます事は御同慶の至りでございます。

皆さんの御協力なくしては到底出来無いことですので宜しくお願い申し上げます。来年リオ・デ・ジャネイロで行われる第14回総会で私が会長に任命されまして、第15回の日本総会迄つとめます。リオ・デ・ジャネイロの大会にも是非多勢の方に参加して頂きたいと

川野辺議長
理事会におきまして会長に三神美和先生が推挙されました。
(拍手)
では三神先生にひきつゞき会長をお願いいたします。
副会長は川那部喜美子、小俣喜久子、山崎倫子、柳瀬路子、中川富士、常任理事には柳瀬路子、中川富士、丸山芙実、久保田くら、小野春生、福永ひろ子、上田葉、大原一枝、佐野ア



混雑する受付風景・帝国ホテルスカイルーム入口

評議員会議事録

日 時 昭和48年5月12日
午前九時～十時

場 所 帝国ホテル・スカイルーム

司 会 福永理事

司会者 評議員数一一七名、出席者六十四名、委任状三十五通で定款により評議員会成立の旨報告

一、会長挨拶 三神会長

一、議長選出 会長に一任
新宿区支部長今野信子氏に決定

一、会務報告 柳瀬理事

庶務報告 別紙通り

事業報告 //

議 題
一、会費値上について 三神会長
四十七年度は黒字決算であるが国際女医学会もひかえ、事務所も日本女医学会で独立したのももちたいその他諸状勢で会費を値上げしたい。

——可 決——

二、昭和四十七年度決算報告 中西理事

1. 収入の部 別紙通り

2. 支出の部 別紙通り

三、財産目録 中西理事

1. 資産の部 別紙通り

2. 負債及剰余金の部 別紙通り

別紙通り

四、剰余金処分案について

監事監査報告 八木監事

以上二、三、四議案承認

五、年金会計報告 中西理事

——承認——

六、昭和四十八年度事業計画案について 山崎副会長

別紙通り

——承認——

七、昭和四十八年度収支予算案について 丸山理事

1. 収支の部 別紙通り

2. 支出の部 別紙通り

——可 決——

八、次期総会開催地について 三神会長

石川県ではどうか

——可 決——

吉岡彌生賞受賞を謝して

阿部 秀世

この度はからずも日本女医学会三神会長はじめ皆々様の深いご理解と温いお心により吉岡彌生賞受賞の光栄に浴し心から感謝いたしております。

このような栄誉を頂きましたのは恩師吉岡彌生先生が私にお与え下さった一粒の種子を、戦後の混乱の時代から今日まで、私が微力ながら育てたささやかな実りに対してかと察しられ、吉岡彌生先生のお心に少しでも沿い得た

かと今ここに昔日の想いを新にいたしております。

顧みますと彌生先生は戦前戦後結核が猖獗を極め、当時未だ結核の特効薬もなく予防のBCG等もなく、洵に混沌としており、結核亡国をさげられた時代に、東京結核予防婦人会を創設され、母と子の健康を守ることに心をつとめられました。



第4回吉岡賞受賞者 左より 学術部門に貢献された 鮫島 美子・河野 林 社会部門に貢献された 阿部 秀世・野呂 たじ

当時私もそのメンバーに加えていたささ色々とご指導を頂き責任ある部所をも与えられました。爾来私は先生のご意志に沿うことに努力してまいりました。その一環として結核家庭の乳児を未感染のうちに隔離し健全に保育する必要性の重大さを痛感し当時収容能力の少なかった乳児院の設立を決意いたしました。然し当時は戦後の混乱の中で国の社会福祉部門も現今とは比

すべくもない状態で設立にあたって何等の補助も与えられず、私財を投じて昭和二十七年木造モルタル建築にて五十名収容のささやかな乳児院を設立いたしました。

爾来物心共に苦難の道を歩き幾度か挫折しようとしながら発足の日、彌生先生から頂いたお励ましのお言葉を胸に又今は亡き母の理解と協力を得て困難を克服しながら薄幸な乳児の保育に献身してきたつもりです。保育園とは異り二十四時間保育で、日曜、祭日もなく、家庭の母の代りとなり献身する若い看護婦、保母、栄養士その他従事者の献身的な協力に感謝しつつ二十余年の歩みを大過なく続け得たことは只々感謝あるのみでございます。

そして幼ない命を守るために、長い間私の念願であった不燃性鉄筋建築を昭和四十二年六月によりやく完成することが出来ました。然し今日では日本国も福祉国家としての歩みを進め、福祉施設にも少しずつ温い手がさしのべられるようになりました。とは言え未だ諸外国には比すべきもない状態で建築にあたっては国庫及都の補助金等僅少のもので数千円借入金をしていないながらもすくすくと育ちゆく子供の姿に肩の荷の重さも忘れる日々でございます。この度日本女医学会の諸先生方の温いお励ましを深く胸にささみ残された私の生涯を更に幸福い子供達のために捧げたいとお願いいたしております。尚頂戴いたしました賞金は子供達の浴湯ポイラーが老朽使用不能となりましたので新規購入(約二百万円)資金

の一部にあてさせて頂き、日本女医学会の皆様日々感謝を捧げさせて頂きま

吉岡彌生賞を受賞して

野呂たじ

この度は若葉薫る五月の母の日に、日本女医学会から最高の栄誉である吉岡彌生賞を頂き、考えてもいなかった事

私は幼時より不遇の家庭に育ち、ありとあらゆる辛酸をなめつくしたと申しても過言ではありません。幸にして女子医専を卒業し、職業をもち、富める人、貧しき人、様々な家庭を知り、如何なる層においても悲しみとなやみのないものはないことを知り、肉体的病のみでなく心の病も軽く出来る医者

大東亜戦争が敗戦となり国民は大きなショックを受け、アメリカの自由主義の名の下に総ては混乱した時代でした。幼児の教育は如何にしたらよいかと、若き母親は困惑し小俣カトリック教会へ教育を申込みました。その後地域の方々の要請により教会を借り、

町にはその後町立幼稚園、保育所も出来ましたが、園児の希望は減らず、十五年間継続しました。しかし物質文

明の世相の中に何の設備もない無認可の園を経営することは困難となり、教会のあった土地は幸い私有地でしたので二百七十坪を提供し、切なる父兄の懇望により昭和四十四年四月に小さな幼稚園を設立し、マリア学園の星幼稚園と命名、認可を頂きました。職員の方々の堪えざる努力と、先輩、友人、父兄の方々の御協力により本年園児は百三十名に達しました。幼児の精神教育即ち自我をすてお互に愛し合い、平和な心を植えつける教育を主眼として大変喜ばれております。

この度は至誠会三重支部の先生方、神父様方、父兄の皆様沢山の推薦状を頂き厚く御礼申し上げます。このような賞を頂き、更に心を改め、将来第二第三の国民となる幼児に豊かな愛の精神を植えつけるために命の限り努力してこのご恩にお報いするつもりです。今後共皆様のご指導ご鞭撻ご協力の程、重ねてお願い申し上げます。

吉岡彌生賞受賞に関して

東京都監察医務院 河野 林 (鶴風会)

昭和十三年三月、帝国女子医専を卒業して以来、母校をはなれ、当時戦時中のため、男子の大学に特別、無給助手として入室を許可され、病理学を専攻する機会を得ました。

戦地に出征する男性教室員の代用と云う理でした。男尊女卑の思想は戦後の若い方には想像外に根強いもので、現在でも医師の世界は余り変わっていません。

吉岡先生は、女子の社会的地位の向上、男女同権を主張され、女性全般の指導者でいらっしやいました。昭和の初期、戦前ですが、一般サラリーマンが月給五十円〜百円、一流の大学教授が三百円の時代に女医さんは七十円以下の月給では就職するなと仰言っておられました。

女医さんが安く使われることを戒められたお言葉で、私も感激しました。医学の進歩は勿論、日本の女子が人間なみ、欧米なみの人権を獲得するべく生涯、男性上位の社会で、女子の教育に御尽力下さった吉岡弥生先生には満腔の尊敬と感謝の念を抱いています。

今回、日本女医学会の諸先輩各位の御高配により、吉岡彌生賞を頂き、あらためて吉岡先生、また、女医学会の皆様様に深く感謝致します。

私の受賞の対象となった仕事は最近十年来続けているもので「脳の血管構築と脳外傷における形態学的傷害発生機序との関係について」検索しているものです。

昭和四十七年から脳・神経外傷第四巻一号より毎回各号に、一項目づついろいろの脳外傷について剖検所見を書いています。女医学会の皆様から御教示頂ければ幸いと存じます。

懇親会

理事 長池 博子

五月十三日朝から始められていた総会がすみ、ホッとしたのも束の間、総会場の帝国ホテル孔雀西の間で午後五時から懇親会が開催された。

山崎副会長の開会の辞、またまた会長に選ばれた三神先生の御挨拶がありました。特に国際女医学会の日本開催という大事業を立派に成し遂げる為に、会員諸師の御協力を切望する旨のお話があった。

川野辺参議院議員からは、昨年の静岡の総会以降、毎年スポンサーを引うけて下さった花王石鹸K・Kの御紹介があり、その代表として出席され光一点影山家事化学研究所長からご祝辞を頂いた。前会長竜先生(名誉会員)に乾杯の音頭をとって頂く。

次々と運ばれる中華料理がさめないように箸を動かしながらのスピーチにうつり、先づ最初に今回名誉会員となられた荒川アヤ先生の御挨拶があり、ついで吉岡彌生賞受賞者の御挨拶。

これは、総会の席上で時間が少なくて省略させて頂いた御挨拶なので、一同耳を傾けて拝聴した。社会に貢献して受賞なさった野呂たじ先生、阿部秀世先生、学術に貢献して受賞なさった河野林先生、鮫島美子

先生、それぞれに女性として社会の第一線にお立ちになって、よくぞ成し遂げてこられたと思うようなきびしい道を歩まれて今日の賞を受けられたことに、会員一同頭をたれてお話を伺った次第である。

又今席のゲストとして出席された林翁様先生(昭八年卒至誠会員)は、日本医師会の招待で台湾から来日された三〇人の医師団中ただ一人の女医で、台北の近況などを話された。

表面的には日中友好優先であって、私共女医にとっては、日中の中心の交流はそう簡単に割りきれられるものではないことを痛感した。

次いで山本 杉先生から次期参議院立候補決意の御挨拶があり、その後援会々長をお引き受けになった三神先生からも推薦の御挨拶があった。

何の選挙でも全くなりびしいものではないが、山本先生にとっては雪辱選でもあるので、充分な準備のもとに善戦されることを祈念するものである。

最後に、来年の総会を引きうけられた石川県の米林梅子副支部長より、金沢地区の魅力あふれる御紹介があり、昭和四十九年は五月中旬開催と内定した。

石川県支部の皆さん、来年はよろしく!!

二時間に亘る懇親会も、盛沢山の内容で無事に終了したが、三年後に迎える国際女医学会の準備に向けて、新役員を先頭にスタートをきった想いであった。

定例理事会一月は帝国ホテルにて新年会をかねて行い。主なる議題として事務所の件、国際女医会々議のための組織委員会案につき検討す。

定例理事会議事録

日時 昭和48年3月24日(土)午後3時~5時半

場所 東京女子医大 中央校舎一階会議室

出席者 三神、小俣、川那部、山崎、中川、森、柳瀬、久保田、丸山、上田、守安、小野、荒川、森川、阿部、戸田、真鍋、鈴木、白橋、山口、佐野、福永、長池、佐藤(子)、稲葉、石田、佐藤(一)、添田、八木

欠席者 中西、大原、山本、中村、湯本、綾仁、松岡、橋本、栗原

会長挨拶 庶務報告(森常任理事)

役員立候補者報告

○会員物故者 後藤明代 48・3・5 脳溢血

○新支部長選出依頼書発送(48・2・27)

各支部長宛、任期満了に伴う新支部長選出及届出を三月末日迄に依頼した。

○支部助成金送付 昭和四十六年度会費完納分に相当する支部助成金を小切手で各支部に送金した。

○新卒入会者 東京女子医大卒九六名 群馬大新卒 一名

○愛知県支部結成一〇周年式に(48・3・21)山本理事出席

○牧野夫佐子子女史より「ボランティアの歩み」寄贈さる。

○佐野アヤ子国際連絡書記 国際女医学会委員・PR委員となる。

○福永ひろ子理事神奈川県交通安全協会より長年に渉る休日返上の献身的医療に対し表彰をうく。

○品川元の竹中支部長より荏原、品川の二支部に改組してほしい旨依頼状あり、品川居住の松岡理事より

実状を聞いてから討議することになった。 会計報告(丸山常任理事) 議事

① 総会について(小俣副会長)

○総会当日の役割分担は評議員会(司会 福永)総会(司会 松岡、開会の辞 小俣、閉会の辞 川那部)懇親会(司会 長池、挨拶 山崎、乾杯 龍岡 司会者)

○報告者は(会務報告 柳瀬、収支決算、財産目録、予算は中西、事業計画案山崎にて如何)一可決

○選挙について(柳瀬常任理事) 事前によく説明しておく必要があると思う。一次期理事会までに選管委員十五名を考えてくること。

○予算案について(丸山常任理事) 三五〇万円の赤字になるので会費値上げを議題に上げることになると思う。

○会長(会費納入率五〇%というの)は考える必要がある。

○長池(二、三年は値上げのない線で考えてもらいたい。尚前納分の会費は不足分を徴収して処理された)

○佐藤イタク(前納会費を集めたのは会の財産が五万円であった時の応急策であった)

○議事終了の後、「国際女医会について」という演題で小野国際女医会副会長がブラジル大会への出席勧誘をする。

○次期総会開催地の件 金沢は如何?(会長)

○事業部予算について(山崎副会長) 性教育の問題は切り取りたいと思う。従って公費問題の調査費と変更したい。

○奨学金を奨学助成金として会員の留学又研究などの助成に使うよう総会にはかりたい。

○無医村地区研究会より、へき地診療助成金に関する報告と本年度予算及助成下附額がきている。例年通り助成したいが如何(会長)一可決

○副会長常任理事の選出は当日行おうか? 当日新理事会を開き会長の推選と共に副会長(三同窓会より各一名、計三名)、常任理事(三同窓会各三名及次点者の一〇名)互選で決める。

② 国際女医会について(会長)

○組織委員会に提出されたが、国際外科学会との機軸に模して考えたのが別紙三号の案である。その役務は別紙四号、五号、六号)会期、会場、組織についてご検討願いたい。

○会期、会場については組織委員会が出来てからその係が決定する。

○会計を独立させる必要がある。監査部門も必要である。

○中央委員会とあるのを事務局と改称して原案の組織を承認。

○組織委員長は三神会長に決まる。龍前会長に前会長として待遇することと可決した。

○その他

○国際女医会への会費納入及寄付について(小野常任理事)

○本年度の渉外費がまだ余っているので三五〇人分の追加会費及PRするための寄付金として一〇〇、二〇〇ドルを出したいが如何。予算内でまかなえる。一可決




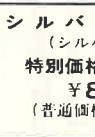

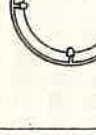

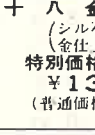



本部だより

▼名簿発行について 本年末名簿を発行いたします。従来全会員に名簿をお送りいたしておりましたが、物価高の折から本年九月末日までに会費完納(昭和四十七年度分まで)された方を対象にお送りいたします。

印刷部数に限定がありますので、発送後ご希望があっても応じかねる場合もあることと思っておりますのでご諒下さ

い。 名簿に訂正事項がありましたら本部まで至急ご一報願います。 ▼会費値上げ! 第十八回定時総会で昭和四十八年度より二千五百円、卒業後三ケ年は千五百円と決定いたしました。 本年度より十ヶ年前納は都合により廃止されます。すでに前納されておられる場合はその差額分を請求いたします。

▼ルーペンダント特別セール 中元、ご贈答用に今回よいチャンスです。原料割高になり次回より値上げすることになりました。是非この機会をご利用下さい。

ルーパーペンダント		《新製品》ルーパーペンダント	
 <p>イレックス シルバー製(シルバー鎖付) 特別価格 ¥7,000 (普通価格 ¥8,000)</p> <p>十八金製 特別価格 ¥11,000 (普通価格 ¥12,000)</p>	 <p>マーブル シルバー製 (シルバー鎖付) 特別価格 ¥8,800 (普通価格 ¥9,800)</p>	 <p>テラックス シルバー製(シルバー鎖付) 特別価格 ¥8,800 (普通価格 ¥9,800)</p> <p>十八金製 特別価格 ¥13,900 (普通価格 ¥14,900)</p>	 <p>十 十八金製 (シルバー生地) (金仕上り鎖付) 特別価格 ¥13,900 (普通価格 ¥14,900)</p>
 <p>からくき シルバー製(シルバー鎖付) 特別価格 ¥8,800 (普通価格 ¥9,800)</p> <p>十八金製 特別価格 ¥13,900 (普通価格 ¥14,900)</p>	 <p>スクエア(大) シルバー製 (シルバー鎖付) 特別価格 ¥8,800 (普通価格 ¥9,800)</p>	 <p>金鎖 十八金製鎖(75cm小豆型) 特別価格 ¥11,000 (普通価格 ¥12,100)</p>	 <p>十 十八金製 (シルバー生地) (金仕上り鎖付) 特別価格 ¥13,900 (普通価格 ¥14,900)</p>
 <p>ヘンダント型 金色 特別価格 ¥2,700 (普通価格 ¥3,000)</p> <p>銀色 特別価格 ¥1,800 (普通価格 ¥2,000)</p>	 <p>スクエア(小) 十八金製 特別価格 ¥11,000 (普通価格 ¥12,000)</p>	 <p>クリップ型 金色、銀色(ロジウム仕上) 特別価格 ¥1,800 (普通価格 ¥2,000)</p>	

・夏期特別セール期間 七月一日より八月末日まで。 申し込み方法...同封振替用紙に種類、個数を明記の上、ご送金願います。 現金送金でも結構です。 昭和四十八年六月二十日印刷 昭和四十八年六月二十五日発行 編集人 久保田くら 発行人 日本女医学会 発行所 東京都新宿区市ヶ谷河町19 社団法人 日本女医学会 TEL(3)〇九六八 印刷所 東京都港区白金五丁目一 興栄美術印刷株式会社 題字 吉岡 弥生